

令和5年度 中央区立日本橋小学校 外部評価報告書

外部評価委員：今江嘉利、多賀谷里沙、野崎 剛、小森優子、村上勇人、藤木牧子、東 純生、
竹田津敬子、岩上佳夫 ※敬称略

報告書作成者：細谷 美明（第三者評価委員）

評価時期 令和6年3月

1 重点目標の評価

重点目標1(わかる授業を追求する「楽しい学校」)について

学校評価の結果を見る限り、児童はおおむね学校の授業に対し満足している状況が見える。ただ、各学年の授業を参観した限りでは、「わかる授業」は行われていた。今後は、いわゆる「主体的・対話的で深い学び」の授業をより充実していくことが重要である。子供の主体性を前面に押し出す授業は、子供の学習意欲につながり教師の適切な評価（助言）によってさらに発展する。授業形態そのものを主体性中心のものにシフト転換していくことが重要であろう。

重点目標2(授業規律・生活規律を徹底する「規律ある学校」)について

こちらも学校評価の結果を見る限り、児童は自他の生命尊重、思いやりの心など授業や諸活動を通しておおむね育っていると考えられる。ただ、保護者や児童のアンケートを詳しく見ると、規範意識にやや課題が見受けられる。自分の悩みを教員が相談にのる項目でやや課題があることが関係しているのかもしれない。真の規範意識とは自分の体験を振り返ったことを教訓とし習得するといった自律的な要素を持つものである。こうした習慣付けを学校の教育活動に位置付けることが大切であろう。

重点目標3(新しい校風を創造する「愛される学校」)について

この項目においても学校評価、保護者・児童のアンケートとも高い評価である。昨年度から本校が取り組んでいる社会科教育の成果が考えられる。地域に残る史跡や伝統行事を学校の教育活動に取り入れ、教室内の授業と校外における様々な体験活動を組み合わせることで、こうした高い評価につながったものとみることができる。地域の全面的な協力がなければできないことでもある。こうした地域の教育資源を活用することが多大な教育効果を生むことが証明されたといえよう。今後も同様の活動を教育課程に組み込んでいくことが大切である。

2 今後の改善に向けた意見

これまでのことから、児童の主体性を生かす教育活動、児童の振り返りとそれに対する教師やかかわった大人からの助言活動、児童の身近にある教育資源を生かした教材の開発・活用が本校の課題を解決するキーワードであることは明白である。来年度以降は、今年度得た成果を生かし、授業や教育相談活動の改善につなげていくことを提案したい。

3 その他の意見

現在、本校に限らず、全国的に小学校は慢性的な教員不足といった深刻な状況にある。そのことが適切な教育活動や学校運営の妨げとなり児童の教育にも大きく影響することとなることは明白である。こうした状況の中でも本校は地域の協力を得ながら高い成果を出している。教育委員会においても指導主事を頻繁に学校に派遣し授業観察をしたり校長からの意見をより細かく聴取したりするなどして授業改善や学校経営の支援を行うとともに、そのことを通し教員の職場環境の適正化を短期・長期の両面から図ることを期待する。

